
会社員

伊能元帥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

会社員

【コード】

N3392J

【作者名】

伊能元帥

【あらすじ】

よくいる普通の会社員の一生です。

(前書き)

社員にまつわるちょっとした話です。

学歴まあまあ、大学をやつと卒業し、この会社に入社してからもう35年。

もうすぐ定年、か・・・

会社の皆の御陰で一人暮らしでも全然寂しくなかった。

入社した頃は小さな会社だったけど、今や全国に展開する大会社になつたよな。

入社以来、ずーつと何十年間も一緒にいる友達もいれば、最近入ってきた昔のおれみたいなの、

何も知らない若者もいる。振り返れば皆に支えられてばかりだったなあ・・・

昨日、血圧が高いと医者に言われた。

あの時、軽く飲み干していったラーメンのスープは何だったのだろう。一滴一滴が惜しくなり、

一口を永遠のように味わうようになった。残すスープが残飯の道をたどるのが悲しい。

そして4年が経ち、もうあと1年で退職か、と思っていた矢先。

40年の付き合いになる親友が走ってきて、社長室に行くように言われた。

万年部長だけでなく、不祥事の責任まで負わされるのか。

しかし、社長は口を開くところ言った。

「君を専務に昇格する」

夢か。夢ではない・・・

入社以来一生の夢。専務、それは憧れの存在であった。

あと一年・・・たった一年だが、夢の叶った時間を楽しもう・・・
親友や部下に囲まれ、花束を贈られる。

あと一年というのが惜しいくらいだ。もっと働きたかった。

一年後・・・遂に退職の時。40年間付き添ってきた親友と共に、
専務昇格の時よりも大きな花束を贈られる。

「40年間、お疲れ様でした！」

涙が溢れてきた。40年間、経営難、財政難を乗り越え、居酒屋で
愚痴をこぼしてきた。

この40年間は、絶対に誰にも負けないほど素晴らしいものであっ
た。

翌日からは毎日が日曜日だった。

しかし、俺はいつも通り、外に出て、「散歩がてら」会社に寄った。

すると社員達は満面の笑みで、「おはようございます」と言ってく
れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3392j/>

会社員

2011年1月15日21時07分発行